

答申第2号
令和8年1月8日

那霸市長 知念 覚 様

地方独立行政法人那霸市立病院評価委員会
委員長 屋良 朝雄



地方独立行政法人那霸市立病院令和6年度における業務実績評価について
(答申)

令和7年7月29日付け諮問第2号について、次のとおり答申します。

記

別紙「地方独立行政法人那霸市立病院 令和6事業年度業務実績評価に関する意見」のとおり答申します。

(別紙)

地方独立行政法人那覇市立病院

令和 6 事業年度業務実績等評価に関する意見

令和 8 年 1 月

地方独立行政法人那覇市立病院評価委員会

本評価委員会において、那覇市長より令和7年7月29日付け諮問第2号で諮問のあった「地方独立行政法人那覇市立病院令和6年度における業務実績評価について」について審議を行った。その結果は以下のとおりである。

1. 全体的な意見

地方独立行政法人立の市立病院として、市民に提供するサービスその他の業務の質の向上、業務運営の改善及び効率化、並びに、その他業務運営に関する重要な事項の達成に向け、様々な取組や業務改善に努めたことを評価する。

財務内容の改善に関し、課題があることから、引き続き、那覇市立病院としての公的使命を果たせるよう、新病院開院を契機に、より一層の収益確保に努めていただきたい。

中期計画及び年度計画の第1から第4の各事項についての意見は次のとおりである。

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

急病センターの受診患者数は減少したものの、救急車受入数や受入率、急病センター経由の入院患者数はいずれも増加した。時間外選定療養費を導入したことで、緊急を要さない患者による時間外診療を抑制しつつ、重症患者の受け皿として機能している。また、ハイリスク妊娠婦受入体制の維持をはじめ、NICUを有し、地域周産期母子医療センターとして期待される役割を果たしている。さらには、災害に備えた対応力向上や保健所等との連携、地域医療機関との協力関係の強化を進める等、市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に取り組んでいることを評価する。

特に、職員の専門性向上や育成支援をとおし、組織基盤の強化に努めたこと、職員の安全管理に対する意識向上や職種間連携の強化等の分野における業務改善、そして、外国人が医療を受けやすい環境整備に向けた市立病院独自の取組について、高く評価する。

新たに手術支援ロボットを導入したことで、より安全にがん疾患にも対応できるようになった。次年度には新病院開院を控えていることから、地域医療発展のため、これまで以上に貢献していくことを期待する。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

PDCAサイクルの実践や多職種連携を通じて、職員の意識改革を促しながら、継続的な業務改善に努めたこと、さらに職員全体の働き方改革に尽力していることを高く評価する。また、院内迅速対応チーム(Rapid Response Team: RRT)発動件数は夜間を含め著明に増えており、入院患者の急変対応に則したことを評

価する。

今後に向けて、医師の働き方改革を進めるにあたり、労務管理だけでなく、タスクシフトやタスクシェアを推進していくことを期待する。

第3 財務内容の改善に関する事項

経常収支比率・医業収支比率ともに目標を達成できず、年度計画以上の多額な純損失となった。年度計画でも、新病院建設の工事費支払に伴う消費税計上、新病院に向けた施策(人員整備・設備投資等)により、かなりの費用増加を見込んでいたが、これに加えて、医業収益が伸び悩んだことにより、損失が拡大する結果となった。新病院開院を契機に、より一層の収益確保に努めていただきたい。

また、救急医療や小児・周産期医療をはじめとする市立病院の公的使命を果たせるよう、那覇市の当初予算編成や負担金精算にあたり、引き続き市担当課への情報提供や連携をとおし、所要額の確保に努めていただきたい。

第4 その他業務運営に関する重要事項

新病院棟建設工事について、安全第一、かつ、診療に極力影響を与えない工夫をしつつ、工期の遅れを最小限度にとどめたこと、また、移転準備室の立ち上げや職員向けの情報発信等をとおし、病院移転に向けた機運醸成、職員が主体性を持って関わられるよう、工夫したことを評価する。

2. 項目別の意見

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

注1：()は小項目の通し番号を表す。以下同じ。

注2：【 】は地方独立行政法人那覇市立病院(以下、「市立病院という。」)の自己評価を表す。以下同じ。

(1)救急医療体制の維持・充実【ウエイト2 評価Ⅲ】

(意見)

急病センターの受診患者数は減少したものの、救急車受入数、同受入率及び急病センター経由の入院患者数はいずれも増加している。時間内の総合初診外来での積極的な患者受入を進めた結果である。また、時間外選定療養費を導入し、緊急を要さない患者による時間外診療を抑制しつつ、重症患者の受け皿として機能したことは評価される。ただし、時間外選定療養費について、より適切な運用と懇切丁寧な周知活動に努めていただきたい。

(2) 小児・周産期医療の確保 【ウエイト2 評価III】

(意見)

実績は目標値に及ばなかったものの、少子化による影響も推察されるところであり、地域周産期母子医療センターとして、NICU を有し、また、ハイリスク妊娠婦受入体制の維持に努めたことを評価する。

分娩を取り扱わない産科(病院、クリニック)も増えてきており、今後も市立病院の周産期母子医療提供体制を維持していくことは大変重要である。持続可能な診療体制を維持していく上で、小児科医、とりわけ小児集中治療医の働き方改革や人材育成に努めていただきたい。

(3) 平時からの備えと発災時の対応 【ウエイト2 評価III】

(意見)

様々なシナリオを想定した訓練に市立病院DMATを参加させ、対応力の維持・向上に努めたことを評価する。

(4) 医療支援への取組 【ウエイト2 評価III】

(意見)

—

(5) 保健所等との連携 【ウエイト2 評価III】

(意見)

改正感染症法に基づく医療措置協定を沖縄県と締結したことを評価する。感染防止対策を実施するための必要な体制の維持に取り組むことは、市民へ安全安心の医療提供を実現するだけでなく、経営上の観点からも重要である。保健所や地域保健医療機関との連携をさらに強化していくことを期待する。

(6) 感染症対応時における救急医療提供体制の確保 【ウエイト2 評価III】

(意見)

—

(7) 保健・福祉行政との連携、地域包括ケアシステムの推進

【ウエイト2 評価III】

(意見)

小児における虐待対応の向上とネットワーク作りに向けた取組について、院内にとどまらず、合同研修会を開催する等、関係医療機関と連携

して取り組んだことを評価する。

また、健診センターにおいて、管理栄養士等による積極的な対応により、特定保健指導件数は前年度より増加し、さらには目標値も上回ったことを評価する。

ペイシエントフローマネジメント(PFM)への取組に関連し、ICTの活用は試行錯誤の段階とのことであるが、患者や利用者の満足度向上だけでなく、病床の効率的運用をはじめ、病院経営の安定にも資することから、マンパワー確保と並行して、その充実強化に努めていただきたい。

(8)市民への情報の提供・発信【ウエイト2 評価III】

(意見)

—

(9)外国人対応の充実【ウエイト1 評価IV】

(意見)

在留外国人、特に、多くの日本語学校が立地する那覇市の地域性に着目し、留学生向けのセミナーを開催し、医療アクセスに関する知識の普及啓発に尽力したことのほか、地域医療機関へ市立病院が持つ知見を提供する取組等、外国人対応を充実させるため、積極的に取り組んでいることを高く評価する。

さらに、増加する訪日外国人受診者への積極的な受入体制が図られ、医療資源の有効活用が行われていることを評価する。

(10)専門性を持った医療人の確保及び育成【ウエイト2 評価III】

(意見)

専門性を持った8名の医師の採用により、診療体制の強化が図られた。また、初期臨床研修医のフルマッチや内科専門研修プログラムの定員を満たしたことなど、コロナ禍で医師の確保に苦慮していた状況から、大きく改善している。指導医や上級医の貢献もさることながら、令和5年度に開設した「教育研究支援センター」が機能した結果であると評価する。

新病院開院に向け、必要な看護師を採用できたことは喜ばしい。しかし、例年より若年層の離職が多かったことについて、医療の現場においても時代に即した教育制度の見直し等が必要であり、同時に育成を担う中堅・ベテラン職員の負担軽減と併せ、さらなる改善を期待したい。

(11)医療機器等の計画的な更新・整備【ウェイト1 評価III】

(意見)

—

(12)がん医療の充実【ウェイト2 評価III】

(意見)

高度医療機器(手術支援ロボット)の導入により、より安全にがん疾患に対応できるようになったことを評価する。

地域がん診療連携拠点病院には様々な役割があることから、新病院では、がん医療のさらなる充実を期待する。

(13)地域医療機関との連携推進・強化【ウェイト2 評価III】

(意見)

紹介率、逆紹介率ともに目標を達成したこと、特に、逆紹介率については、かかりつけ医だけではなく、在宅療養支援診療所とも連携し、患者に対し、切れ目のない医療提供に努めたことを評価する。

理事長が市医師会常任理事として担っている地域連携の強化についても、市立病院中期計画と同じベクトルで進めていただき、相乗効果が發揮されることを期待したい。

(14)人材の確保及び育成【ウェイト1 評価IV】

(意見)

病院事務職員に求められる専門性を高める等、病院経営の強化に貢献できる人材の確保及び育成に努めたことを高く評価する。

人件費が上昇し、経営状況も厳しいことから、ハドルは高いものの、人事考課と併せ、資格取得に対するインセンティブを創設するなど、人材の安定的な確保につながる取組を期待したい。

(15)患者中心の医療【ウェイト1 評価III】

(意見)

日帰り手術センターの新設により、患者及び家族の精神的負担や入院費等の経済的負担の軽減だけでなく、病棟看護師の業務負担の軽減につながったことを評価する。

(16)医療安全対策の徹底【ウェイト1 評価IV】

(意見)

インシデントレポート報告件数、医療安全研修回数が前年度よりも増

加した。年度計画より高い目標値を設定していた医療安全業務計画を達成したことは、職員の医療安全に対する意識が高まっていると評価する。

報告者に占める医師の割合が低いことについて、さらなる改善を期待する。

院内感染対策について、研修回数は前年度から倍増したものの、参加者数は微減となっており、開催方法や時期等、さらなる工夫を期待する。

(17) 医療の標準化と最適な医療の提供【ウェイト1 評価III】

(意見)

パスの標準化を進めた取組について、医療安全への貢献、また、医事会計システムとの連携により、医療の効率化を進める上で非常に有効な取組であったと評価する。

(18) 快適性及び利便性の向上【ウェイト1 評価III】

(意見)

患者満足度調査について、外来、入院ともに高い患者満足度を維持していることを評価する。ただし、入院について、アンケート回収率が低いことから、より多くの声を集められるよう、工夫されたい。また、待ち時間について、診察待ち時間、会計待ち時間のどちらについて不満が多いのかを把握することで必要な対策も変わってくるため、アンケート項目の設定を見直されたい。

(19) 職員の接遇向上【ウェイト1 評価III】

(意見)

—

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

(20) PDCA等のマネジメントサイクルの確実な実践【ウェイト1 評価IV】

(意見)

病院機能評価認定の更新審査について、88項目中、2つのC評価項目があったが、補充的審査でクリアしたことを評価する。

病院事業を展開する中で、日々生じる問題や課題に対応するため、職員の意識改革を推進するとともに、継続的に業務改善に努めていることを高く評価する。

(21) 多職種連携の推進【ウェイト1 評価IV】

(意見)

電子カルテ更新に際し、電子カルテ上で利用可能な在宅注射オーダーの再構築や薬歴管理の導入に向け、多職種が連携して取り組み、実現させたこと、業務改善につなげたことを高く評価する。

(22) チーム医療の推進【ウェイト1 評価III】

(意見)

院内迅速対応チーム(RRT)発動件数は夜間を含め著明に増えており、入院患者の急変対応に則したことを評価する。栄養サポートチーム(NST)加算条件を満たせず、件数は減少を続けているものの、診療報酬改定の影響もあり、今後も動向に注意しながら柔軟に対応されたい。

(23) 働きやすい職場環境づくり【ウェイト1 評価IV】

(意見)

令和6年4月から始まった医師の働き方改革を中心に、職員全体の働き方改革に努めていることを高く評価する。しかし、新・勤怠管理システムは未完成とのことであり、その構築を急ぎ、労働時間及びその内容の正確な把握や管理、健康確保措置の確実な実行にとどまらず、タスクシフトやタスクシェアを推進していただきたい。

(24) 健全な業務運営【ウェイト1 評価III】

(意見)

—

第3 財務内容の改善に関する事項

(25) 経営機能の強化【ウェイト1 評価III】

(意見)

診療報酬請求査定率の悪化について、その改善に努めていただきたい。また、未収金の未然防止対策に関し、多様な決済手段を採用できないか、検討を深めていただきたい。

(26) 収益的収支の向上【ウェイト1 評価III】

(意見)

不十分な診療報酬改定内容など、外的要因はあるものの、費用推計の

確度が高い中、設定した病床稼働率の目標値を大幅に下回ったことが、結果として、今年度の当期純損失の大きさに現れている。重症度や医療・看護必要度の評価基準を満たしつつ、入院患者数の増加を図ること、困難なミッションではあるが、理事会と職員が一丸となって、収益的収支向上に取り組んでいただきたい。

(27) 弾力的な予算執行と費用節減【ウェイト1 評価III】

(意見)

—

(28) 経営の効率化【ウェイト2 評価II】

(意見)

経常収支比率・医業収支比率ともに目標を達成できず、年度計画以上の多額な純損失となった。年度計画でも、新病院建設の工事費支払に伴う消費税計上、新病院に向けた施策(人員整備・設備投資等)により、かなりの費用増加を見込んでいたが、これに加えて、医業収益が伸び悩んだことにより、損失が拡大する結果となった。新病院開院を契機に、より一層の収益確保に努めていただきたい。

(29) 病院事業運営費負担金に関する事項【ウェイト1 評価III】

(意見)

救急医療や小児・周産期医療をはじめとする市立病院の公的使命を果たせるよう、那覇市の当初予算編成や負担金精算にあたり、引き続き市担当課への情報提供や連携をとおし、所要額の確保に努めていただきたい。

第4 その他業務運営に関する重要事項

(30) 市立病院建替えに関する事項【ウェイト1 評価III】

(意見)

新病院棟建設工事について、安全第一、かつ、診療に極力影響を与えない工夫をしつつ、工期の遅れを最小限度にとどめたこと、また、移転準備室の立ち上げや職員向けの情報発信等をとおし、病院移転に向けた機運醸成、職員が主体性を持って関われるよう、工夫したことを評価する。

(31) デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進【ウェイト1 評価III】
(意見)

—

(32) 公立病院経営強化ガイドラインへの対応【ウェイト1 評価III】
(意見)

—

(33) 地域との協働【ウェイト1 評価III】
(意見)

—